

事例No.2

事業名	国道道路改築道路事業（直轄代行）	事例キーワード <div> 変更面積の最小化、ロードキル対策 </div>
事業担当機関	国土交通省湯沢工務事務所	
事業期間	昭和54年～平成8年	
実施場所	雄勝郡秋の宮～鳴子町鬼首	
事業概要	全体事業費	638億円
	工事概要	延長L＝13.7km（トンネル7箇所、橋梁17箇所）
	事業の目的	<p>かつての国道（旧鬼首峠）は、急カーブや急勾配の連続する険しい山岳道路で、820mの標高にあり、冬の積雪が5mにもなるため、冬期をはさみ約半年間は通行止めとなり、人の交流や物の流動に大きな障害となっていた。そこで通年通行を実現するために、昭和54年度から事業化となり、昭和57年度から着工し、平成8年8月8日に完成した事業である。</p> <p>また、鬼首道路がつくられた地域は、栗駒国立公園の南端に位置し、貴重な生物等が数多く生息しているため、この道路は利用者の利便性ばかりでなく、自然環境に配慮したエコロード（エコロジカル＋ロードの造語・略語）としても建設され、延長13.7kmのいたるところに自然との調和をはかるための工夫を施している。</p>
環境配慮の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. カモシカ、キツネをはじめ、野生動物専用の通り道「エコボックス」を設置した。 2. 道路に動物が立ち入らないように、カモシカの跳躍などを考えた、高さ2.5mの動物誘導柵を設置した。 3. 山を切り取った斜面や土を盛った斜面には、元の自然状態に早く戻すためブナなどの苗木約12万4千本を植えた。 4. 施工も自然の地形をなるべく変えない工法で行われ、工事用道路も最小限にして建設資材をケーブルで運んだりした。 5. 周辺環境と調和するように、法面への植栽は周辺に生育している樹種とした。 6. ネズミ、カエルなど小動物が脱出出来るスロープを付けた側溝を20m間隔で設置した。 7. 照明は、できるだけ昆虫を誘引しないように照明の光源には、高圧ナトリウム灯（黄色光）を採用した。 8. 魚のために、土砂が川に入らないように法面に植栽をした。 	
状況後の	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物横断道路の利用状況は、ノウサギ、イタチ、タヌキなどの利用が確認された。 2. 側溝のスロープを利用する小動物が確認された。 3. イワナの産卵場所が確認された。 	

図面、写真、説明



けもの道を通るカモシカ



けもの道を通るキツネ



盛土に設置の動物誘導柵



スロープ付き側溝の小動物の利用



植栽直後の法面



法面の植栽5年後の法面



ルーバー付き高圧ナトリウム灯



ケーブルによる資材運搬ほたる橋



総延長13.7kmのうち約61%をトンネルと橋梁が占める